

佳作

みんなが幸せになるために

宮城県 川崎町立川崎小学校五年 佐藤 陽南

私は、今年の夏休みに川崎町で行われた福祉体験に参加した。参加しようと思ったきっかけは、オリンピックやパラリンピックのことが学べると知ったからだ。気軽に参加した体験会だったが、この体験が「障害」について考えるきっかけとなった。

福祉体験ではピクトグラムのことや、パラリンピックのことを学んだ。

ピクトグラムの学習では、実際に自分たちで考えて作る活動があった。テーマは「夏休みにやりたいこと」だった。私は手に棒を持った人の足元に丸を描いた。「すいかわり」を表現したかったからだ。完成した後、みんなの前で発表するのはとても緊張した。でも、みんなからの拍手をもらったときはとてもうれしい気持ちになった。

ピクトグラムは、文字の代わりに絵を使って分か

りやすく表したものだ。国や年れいがちがくてもそれが何だか分かることによさがある。とてもすばらしいものだと思った。

パラリンピック体験では、二種目体験した。まず体験したのが車いすボッチャだった。車いすに乗っている人がやっている姿を見て、自分にも簡単にできると思ったら、それはちがった。車いすに座ると、うでが手すりに当たって思うようにボールを投げることができない。やってみるとなおさら車いすに乗った人たちのすごさに気付かされた。

もう一種目は、卓球バレーだった。普通バレーをする時は立ってするけれど、このバレーは座ったまま行った。自由に動き回ることができず、とても難しいと感じた。

そんな状況でも、障害がある方はとても前向きに取り組んでいた。私ははずかしい気持ちがあつて、なかなか自分からやろうとすることができないことがあるけれど、障害がある方はそんな気持ちは一切無い様子で、自分から取り組もうとしていた。その姿には心を動かされた。

この世界には障害がある人となない人がいっしょに暮らしている。そんな世界でみんなが幸せになるた

めにはどうしたらいいか考えてみた。やっぱり「助け合う」ということが一番大切なのではないかと思つた。そして、どんなことも「いっしょにやる」ということも大切だと感じた。

気軽に参加した体験会だったが、障害がある人たちと接することであるいろいろ考えさせられた。私は、今、楽天イーグルスのチアに入って試合などでおどっている。もし、私が車いす生活になったとしても、車いすに座ったまま、手だけでもダンスをおどる。この体験会に参加していなかったら、きっと考えなかったことだと思う。私に考えるきっかけをあたえてくれた体験会での経験を大切にして、これからも、前向きに生活していきたいと思う。